

市川三番瀬クリーンアップ大作戦の歩み

－「たかがゴミ広い！されどごみ拾い!!」が啓発した市民活動－

開催日等	内 容	活動記録等
第1回 11/21 (1999年)	<p>当時はまだ二期埋立計画をめぐって「埋めたい人も埋めたくない人も、みんなで楽しくゴミ拾い」をキャッチコピーにスタートしました。1000人以上を動員し、市民の手で拾ったゴミの量は、何と33t！協働とは素晴らしいものだと思感いたしました。</p>  <p>当日の日の出。全てはここから始まりました。</p>	<p>5大新聞他、日テレ、フジ、東京、テレ朝で報道。特にニュースステーションの特集では約1700万人が視聴されたとのこと。</p>  <p>↑ニュースステーション特集</p>
第2回 11/19 (2000年)	<p>この年は、京成バス社の協賛で、塩浜1丁目～2丁目までの湾岸を7班に分けてゴミ拾いしました。そして市川青年会議所が、1999年の活動でJCI(国際青年会議所)世界大会で見事アワードを受賞しました。</p>  <p>可愛いトロフィー↑重みは十分！</p>	<p>2年目も沢山(32t)のゴミを拾いました。</p> 
第3回 10/19 (2001年)	<p>初の「市川・浦安・船橋」三市合同クリーンアップ！この年の7/8、台風3号が三番瀬を直撃。市川市側垂直護岸が陥没。護岸付近が立入禁止地区となる。当実行委員会は、この危険性を県・市に伝え続けてきたが、皮肉にも最もゴミが散乱していた護岸での活動ができなくなってしまいました。</p> 	<p>フジTV特集「三番瀬に捨てられた犬たち」取材協力。心もとない飼主と捨て犬たちの里親探しをボランティアスタッフが実行委員会一同、深く考えさせられました。</p>
第4回 10/20 (2002年)	<p>市川青年会議所環境イベント「ECOワンダーランド」とジョイント。市川の子供たちと保護者を対象に、三番瀬見学と自然エネルギーの体験イベントを行い、環境学習の場としてクリーンアップ大作戦にも参加いただきました。</p> 	<p>継続した環境貢献活動に対し、市川市長より「行政市長表彰」を受賞。また「第4回汽水域セミナー」を主催。三番瀬に関係する国・県・市・団体等が集まり千葉商科大学で熱い議論を交わしました。</p>
第5回 10/25 (2003年)	<p>行徳文化史跡である常夜燈を、太陽光自然エネルギーを用いてLEDにて点灯させる「エコ常夜燈プロジェクト」を共催。経済産業省支援事業の認定を受ける。地球温暖化防止の啓発に活動の輪を広げたもの頃からでした。</p> 	<p>不法係留されていたプレジャーボートが一掃されました。グリーンアップ活動は間違いなく県の三番瀬環境美化の実践に追い風を送りました。</p>
第6回 10/24 (2004年)	<p>行徳から三番瀬に通ずる公道の突当りには、自動車、営業車、コンテナ等が大量に放置されており、かなり景観を阻害しておりました。我々はここをグリーンアップ大作戦の「本丸」と称し、市川が誇れる三番瀬を目指すためのシンボルとしました。</p> 	<p>本丸落城！多くの報道と市民の注目を引くことで、市川市が放置車両やコンテナの撤去に着手することとなりました。現状からは想像できない程、景観も改善されました。</p>
第7回 10/16 (2005)	<p>市川市市民税1%支援事業制度にエントリー。行徳地区で支援No.1を獲得。三番瀬見学会・環境保全学習等を構成しましたが、残念ながら荒天のため初の中止となりました。また、この頃から塩浜中学校を始めとして、環境学習の一環として「都市生活と三番瀬」というテーマで講演依頼が多くなり、現在でも実行委員会メンバーが多方面で講演活動を続けております。</p>	<p>テレビ朝日「謎の島、東京ミステリア」で東京湾カキ礁の発生を特集。水質改善の一助としてグリーンアップ活動が取り上げられる。</p> 
第8回 10/29 (2006年)	<p>マンネリ化することなく、気を引きしめて継続を誓い合った年でもありました。</p> <p>←毎年恒例の生き物観察会</p> 	<p>市川エコカードの導入。グリーンアップ大作戦に参加することで公設をエコポイントで利用できるしくみがスタートしました。</p>
第9回 12/16 (2007年)	<p>今年は暮れの大掃除！と題して初めて年末に行いました。毎年振舞うあさり汁がひとしお美味しく感じた、暮れの大掃除でした。</p> 	<p>塩浜駅前再開発がいよいよスタートの兆候。来年が最後のグリーンアップであることを予感した年です。</p>
第10回 11/24 (2008年)	<p>市川三番瀬クリーンアップ大作戦が第一に目指したものは環境保全でも開発でもありません。人々との新たな(未来志向)関係づくりから「まちづくり・ひとづくり」のプロセスを大切に、共に協働してゆく姿です。だから最後まで 一みんな楽しくゴミ拾い</p> 	<p>10年間ありがとう！この活動は本当に「たかがゴミ拾い、されどゴミ拾い」でした。</p>